

子どもがかかりやすい感染症

保育所における感染症対策ガイドライン(厚生労働省 H24年11月)より

※症状・経過が異なることがあるので、医師の治療を受け、その指示に従ってください。

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	登園のめやす
麻疹(はしか)	麻疹ウイルス	8～12日 (7～18日)	空気感染 飛沫感染 接触感染	38℃以上の高熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やに。 熱が一時下がる頃、コプリック斑(頬粘膜に小斑点)。 再び高熱、発疹(赤みが強く、少し盛り上がりっている)。	解熱後3日を経過するまで。
風疹 (三日はしか)	風疹ウイルス	16～18日 (14～23日)	飛沫感染 接触感染	発熱、発疹(淡紅色の斑状丘疹)、 リンパ節腫脹(頸部、耳介後部、後頭部)。	発疹が消失するまで。
水痘 (みずぼうそう)	水痘・帯状 疱疹ウイルス	14～16日 (10～21日)	空気感染 飛沫感染 接触感染	全身、頭髪部、口腔内に発疹。 発疹は、紅斑→丘疹→水疱→痂皮の順に変化。 かゆみが強い。	全ての発疹が痂皮化するま で。
流行性耳下腺炎 (ムンプス、 おたふくかぜ)	ムンプス ウイルス	16～18日 (12～25日)	飛沫感染 接触感染	発熱、片側ないし両側の唾液腺の痛性腫脹 (耳下腺が多いが顎下腺もある)。	腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで。
インフルエンザ	インフルエンザ ウイルス	1～4日 (平均2日)	飛沫感染 接触感染	突然の高熱(3～4日間)。 全身症状(全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛)。 呼吸器症状(咽頭痛、鼻汁、咳嗽)。	発症後5日を経過、かつ解熱後3日を経過するまで。
咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス 3、4、7、11型	2～14日	飛沫感染 接触感染	39℃前後の発熱、咽頭炎(咽頭発赤、咽頭痛)、頭痛、 食欲不振が3～7日続く。眼症状として、結膜炎(結膜充血)、涙が多くなる、まぶしがる、眼脂。	主症状(発熱、咽頭発赤、眼の充血)が消失してから2日を経過するまで。
百日咳	百日咳菌	7～10日 (5～12日)	飛沫感染 接触感染	感冒様症状から始まり、次第に咳が強くなり、1～2週で特 有な咳発作になる。 咳は夜間に悪化。合併症がない限り、発熱はない。	特有な咳が消失するまで、又は5日間の抗菌性物質製剤による治療を終了するまで。
結核	結核菌	2年以内 特に6ヶ月 以内に多い	空気感染 飛沫感染	乳幼児では、重症結核の粟粒結核、結核性髄膜炎になる可能性 がある。 粟粒結核…発熱、咳、呼吸困難、チアノーゼなど。 結核性髄膜炎…高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん、死亡例もある。後遺症の恐れもある。	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで。
腸管出血性 大腸菌 (O157、O26など)	腸管出血性 大腸菌O157、 O26など	3～4日 (1～8日)	経口感染 接触感染	激しい腹痛、頻回に水様便、さらに血便。 発熱は軽度。	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間あけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されるまで。
流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス 8、19、37型	2～14日	接触感染 飛沫感染	流涙、結膜充血、眼脂、耳前リンパ節の腫脹と圧痛。	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで。
急性出血性 結膜炎	エンテロ ウイルス	1～3日	飛沫感染 接触感染 経口感染	急性結膜炎で結膜出血が特徴。	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで。
帯状疱疹	神経節に潜伏していた水痘・帯状 疱疹ウイルスの再活性化による	不定	接触感染	小水疱が神経の支配領域にそった形で片側性に現れる。 神経痛、刺激感。小児では掻痒感を訴える場合が多い。	全ての発疹が痂皮化するまで。
溶連菌感染症	A群溶血性 連鎖球菌	2～5日	飛沫感染 接触感染	突然の発熱、嘔頭痛。 しばしば嘔吐を伴う。 時に掻痒感のある粟粒大の発疹。	抗菌薬内服後24～48時間経過していること。 治療の継続は必要。
感染性胃腸炎 (ロタウイルス感 染症、ノロウイ ルス感染症)	ロタウイルス ノロウイルス アデノウイルス など	ロタウイルス は1～3日 ノロウイルス は12～48 時間後	経口感染 接触感染 食品媒介感染	嘔気、嘔吐、下痢(乳幼児は黄色より白色調であること が多い)、発熱。	嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事ができること。
RSウイルス 感染症	RSウイルス	4～6日 (2～8日)	飛沫感染 接触感染	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難。	重篤な呼吸器症状が消失し、 全身状態が良いこと。
マイコプラズマ 肺炎	肺炎 マイコプラズマ	2～3週間 (1～4週間)	飛沫感染	咳、発熱、頭痛。 咳は徐々に激しくなり、3～4週間持続する場合もある。	発熱や激しい咳が治まっていること。

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	登園のめやす
手足口病	エンテロウイルス 71型 コクサッキーウ イルスA16、A6、 A10型など	3～6日	飛沫感染 糞口感染 接触感染	口腔粘膜及び四肢末端(手掌、足底、足背)に水疱性の発疹。 発熱は軽度。	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普段の食事ができること。
ヘルパンギーナ	コクサッキー ウイルスA群	3～6日	飛沫感染 接触感染 糞口感染	突然の高熱(1～3日)、咽頭痛、口蓋垂付近に水疱疹や潰瘍。	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普段の食事ができること。
伝染性紅斑 (リンゴ病)	ヒトパルボ ウイルスB19	4～14日 (～21日)	飛沫感染	軽い風邪症状後、頬が赤くなったり、手足に網目状に紅斑。 発疹が治っても、直射日光や入浴で発疹が再発。	発疹が出現した頃には既に感染力は消失しているので、全身状態が良いこと。
突発性発疹	ヒトヘルペス ウイルス 6、7型	約10日	飛沫感染 経口感染 接触感染	38℃以上の高熱が3～4日間続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発疹。 軟便になることがある。	解熱後1日以上経過し、全身状態が良いこと。
単純ヘルペス 感染症	単純ヘルペス ウイルス	2日～ 2週間	接触感染	歯肉口内炎、口周囲の水疱。 歯肉が腫れ、出血しやすく、口内痛も強い。 治療後は潜伏感染し、体調が悪い時にウイルスの再活性化が起こり、口角、口唇の、皮膚粘膜移行部に水疱を形成。	発熱がなく、よだれが止まり、 普段の食事ができること。
伝染性膿痂疹 (とびひ)	黄色ブドウ球菌 A群溶血性連鎖 球菌	2～10日 長期の場合 もある	接触感染	湿疹や虫刺され痕を掻爬した部に細菌感染を起こし、 びらんや水疱病変を形成。 掻痒感を伴い、病巣は擦過部に広がる。	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること。
アタマジラミ	アタマジラミ	10～14日	接触感染	小児では多くが無症状ではあるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	駆除を開始していること。
伝染性軟属腫 (ミズイボ)	伝染性軟属腫 ウイルス	2～7週間 時に6ヶ月 まで	接触感染	直径1～3mmの半球状丘疹で、表面は平滑で中心臍窩を有する。四肢、体幹などに数個～数十個が簇集してみられることが多い。	掻きこわし傷から液が出ている時は被覆すること。
A型肝炎	A型肝炎 ウイルス	15～50日 (平均28日)	糞口感染 食品媒介感染	急激な発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐。 数日後に解熱するが、3～4日後に黄疸。	肝機能が正常であること。
B型肝炎	B型肝炎 ウイルス	急性感染では 45～160日 (平均90日)	母子感染 血液や体液を介して感染	急性肝炎…全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸など 慢性肝炎…自覚症状は少ない。	急性肝炎…症状が消失し、 全身状態が良いこと。 キャリア、慢性肝炎…登園に制限はない。

上記は、改訂により変更になる場合があります

※主な感染経路の注釈

- 飛沫感染 …… 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛び病原体が含まれた小さな水滴(飛沫)を近くにいる人が浴びて吸い込むことで感染する。飛沫が飛び散る範囲は1～2m。
- 空気感染 …… 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛び出した小さな飛沫が乾燥し、その芯となっている病原体(飛沫核)が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、近くの人だけでなく、遠くにいる人もそれを吸い込んで感染する。
- 接触感染 …… 感染源である人に触れることで伝播がおこる直接接触による感染(握手、だっこ、キスなど)と、汚染された物を介して伝播がおこる間接触(ドアノブ、手すり、遊具など)がある。(病原体の付着した手で口・鼻・眼をさわったり、病原体の付着した遊具などを舐めることによって病原体が体内に侵入して感染する。)
- 経口感染 …… 病原体を含んだ食物や水分を経口で摂取することによって、病原体が消化管に達して感染する。

※出席停止の日数の数え方について

日数の数え方は、その現象が見られた日は算定せず、その翌日を第1日とします。
「解熱した後3日を経過するまで」の場合、例えば、解熱を確認した日が月曜日であった場合には、その日は日数に数えず、火曜日(1日)、水曜日(2日)、木曜日(3日)の3日間を休み、金曜日から登園許可ということになります。
また、インフルエンザにおいて「発症した後5日」の場合の「発症」とは、「発熱」の症状が現れたことを指します。
日数を数える際は、発症した日(発熱が始まった日)は含まず、翌日を第1日と数えます。